

装飾古墳について

立命館大学 和田 晴吾

はじめに

- ・装飾古墳とは何か
 - ・小林行雄編 1964『装飾古墳』（図 1）
 - ・高木正文編 1984『熊本県装飾古墳総合調査報告書』熊本県教育委員会
 - ・国立歴史民俗博物館編 1993『装飾古墳の世界』一覧表・略年表（表 1）等
- ・今回の話—古墳の他界観を考えるとという観点からみた装飾古墳の話
- ・方法 葬送（喪葬）儀礼：モチーフ—シナリオ—舞台・大道具・小道具
装飾古墳もその一部

1. 埋葬施設の定義

- ・「棺」：人の遺体を収納する容器、またはそれに準ずるもの
- 「槨」：棺を保護する施設、またはそれに準ずるもの
- 「室」：棺とは独自なもので、棺置場ほか、多機能な内部空間をもつ施設
通常、外部から室（玄室）にいたる通路（羨道）がつく

2. 前・中期古墳—槨の時代

- ・割竹・舟形の木棺・石棺など+竪穴式石槨、粘土槨など（図 2）
 - ・厳密に密封—邪悪なものが憑かないように、憑いて暴れ出さないように
- ・中国の槨の時代（新石器時代後期～戦国、周辺では以後も）
 - ・魂魄観「魂気は天に帰し、形魄は地に帰す」（『礼記』（郊特性篇））
- ・「閉ざされた棺」—死者は永遠の眠りにつく（自然消滅）—妨害しない
- ・一方、古墳の表面は葺石や埴輪等で仕上げ—「飾られた墳丘」—日本独特
 - ・埴輪などの検討（図 3）
 - ・出入口に船形埴輪、周濠から実物大の飾られた船
 - ・当時、死者の魂は船に乗って他界へと赴くと観念され、葬儀ではそれを真似て、遺体を船に乗せて他界の擬えものである古墳へと誘った。死者の魂が安全・確実に他界へと着き、岩山の頂上にある防衛堅固（武器、武具）で威儀を正した（蓋、翳など）屋敷（家）で山海の幸や酒（朝顔、土製品）に満たされながら永遠の命をいきるというシナリオの表現—亡き首長の冥福を祈る

3. 後期古墳—室の時代

- ・家形石棺等+横穴式石室等—畿内系と九州系に差
- ・畿内系 内部に畿内系の家形石棺—密封型の棺—「閉ざされた室」（図 4）

- 九州系 内部に九州系の家形石棺（横口式、石屋形）や屍床（石障も）（図 6）
 - ・開放型の棺—「開かれた室」—横穴も—死者は内部を自由に移動
- ・『古事記』の黄泉国神話—空間、出入口のある家、閉塞石—チブサン古墳（図 5）
 - ・石室は黄泉国の一部、黄泉国は家の奥に広がる（他界の入口）
- ・「壁画系」の装飾古墳（北関東、東北なども基本は九州系）はここに出現する
- ・中国の室の時代（前漢から）
 - ・槨のなかで死者が動き出す—戦国初期ころから（湖北省の曾侯乙墓など）
- ・室は家形（邸宅の部屋）にはじまる—室のなかで死者が生きる・生活する
- ・そこに壁画—テーマは、はじめは神仙的、後に日常的なものに（図 7、唐代）
 - ・ドーム天井—天空（星、天の川、太陽[三足鳥]、月[蟾蜍]など）
 - ・壁下に饗宴など—家形石槨（扉）—「開かれた棺」—中国の北朝系

4. 日本の装飾古墳

- ・種類 石棺系 槨+石棺 密封型 安福寺（直弧文）・小山谷古墳（鏡）など
 - 室+石棺（妻入横口式家形石棺） 石人山（直弧文・円）など
- 石障系 室+石障（屍床の一種） 千金甲 1（円・三角・靱など）など
- 壁画系 室+石棺（石屋形—平入り横口も）
 - 塚坊主古墳（三角）チブサン古墳（石屋形内—円・菱・人など）
- 横穴系 室+石屋形、屍床（円・菱など、人・船・馬など—レリーフ）
- ・テーマ
 - ①辟邪・密封：直弧文、円文（鏡）、三角、菱など
 - （模様） ②武器、武具 ③人
 - ④乗り物：船、鳥（天鳥船）、馬
 - ⑤狩猟：弓、犬、（馬、人）など
 - ⑥天文：円（太陽、月[ヒキガエル]、星）（四神か） ⑦その他
- ・6世紀前葉に変化 ・彩色 ・テーマ③～⑥加わる
- ・九州系石室 4世紀後葉に伝わる 最初は少なくとも構造
 - 6世紀前葉から他界の表現・内容が加わる（墳丘上の他界は形骸化）

おわりに

参考文献

- 源自 1964 『文物』 1964 年第 1 期
 奈良県立橿原考古学研究所編 1989 『斑鳩藤ノ木古墳概報』 吉川弘文館
 三重県埋蔵文化財センター 2005 『石山古墳』 第 24 回三重県埋蔵文化財展（図録）
 和田晴吾 1999 「古墳時代棺・槨・室—一覧図」 『岩波日本史辞典』 岩波書店
 他に上記の図書他